徳島県南部海域におけるクビレヅタ養殖の検討（抄録）

吉見 圭一郎・廣澤 晃・山本 浩二*

徳島県の南部海域において，有用藻類の増養殖技術を開発している。その1つとして，クビレヅタ *Caulerpa lentillifera* の養殖試験を実施したので報告する。詳細については，『徳島県立 農林水産総合技術センター水産研究所研究報告第2号』を参照されたい。なお，本試験は県単独予算「増養殖技術開発研究」に基づいておこなった。

まず，市販されているクビレヅタの生きた葉状部を培養し，これを養殖用の原藻として使用する方法を検討した。その結果，市販品を養殖用の原藻に用い，これを培養することは，極めて容易であることがわかった。冬季，クビレヅタの一部を簡易な施設で維持・管理したところ，藻体は枯死することなく越冬し，繰り返して養殖用の原藻に利用できる結果を得た。水槽に投入した藻体の維持・管理には，茎状部の千切れや逸散の防止を考慮して，水流を弱めた海水をかけ流せばよいと指摘した。

次に，市販されているクビレヅタを用いて，夏季に養殖試験をおこなった。その方法は市販品のクビレヅタ50 gを網かごに詰め込み，これを屋外貯水池に設置するかご式養殖である。クビレヅタは旺盛な繁殖力を示し，63日後には受光した基質の表面から3,298 gの葉状部を得ることができた。葉状部を形成する球状の小嚢が密に詰まっていることから，得られたクビレヅタは高品質なものであると判断した。試験の結果から，網かごを用いたクビレヅタの養殖は簡便で，クビレヅタの栄養繁殖を強く促すには高照度の光条件が不可欠であることがわかった。そして，大きな群落を形成させるには，藻体の千切れを抑制することが重要であると指摘した。